

佐藤隆彦社長(52)は東北に続けている」と笑う。業大卒業後、清水建設を経て1995年に入社。2005年に3代目社長に就任し、グループ再編を進めるなど経営をスリム化する改革を行った。社員の主体性を重んじる「自主、自発、自律」を経営方針に掲げ「トップダウンの『機関車型』から各車面にエンジンを積む『新幹線型』の体質にしたい」。ゴルフは30年のキヤリアだが「スコアはあまり変わらない。健康のため

2代目社長を務めた佐藤勝彦会長は全国コンクリート送事業団体連合会長を2005年から10年間歴任した。コンクリート打設を専門とする新業態が生まれ約50年前から本県コンクリート圧送業界をけん引してきた。「未知の業界を切り開き、定着させるまでには多くの困難があった。新産業を確立させるためには、機械力ではなく『人間力』こそが重要だと痛感した」と振り返る。クレイ射撃歴60年以上の腕前で、山形猟友会長も務める。11月からの狩猟シーズンは愛犬と共に山野を駆け巡っている。

鈴木悦敏常務(62)は圧送



佐藤隆彦
社長



鈴木悦敏
常務



佐藤勝彦
会長



佐藤啓
取締役

佐藤社長 社員の主体性を尊重

ヤマコン(山形市)

▽ヤマコン 1966(昭和41)年、山形コンクリートサーピスとして創立し、95年に現在の社名に変更した。国内最大規模のコンクリート圧送業と設備事業を展開。国際標準化しているコンクリート打設工法の普及に努め、国内初のブーム脱着型ポンプ車も導入した。資本金9千万円で、単体売り上げは43億4300万円(2016年3月期)。従業員数は222人。本社は山形市十文字天神東770。

と設備の業務管理を担う。「営工一体」を信条とするたたき上げで「現場の全てを熟知している」と隆彦社長からの信頼も厚い。「昔は酒が飲めなかったが、現場で先輩方に鍛えられた」と言い、10月25日には結婚39周年を日本酒で乾杯して祝ったばかり。携帯電話の待ち受け画面は「シン・ゴジラ」。

佐藤啓取締役(50)はヤマコングループの車両部門を担当する関連会社サニックスの社長を務める。座右の銘は「中庸の徳」。何事にもバランスよく行動することを心掛ける。勝彦会長の次男。

社長室拝見



コンクリートポンプ車の油絵

本社1階の社長室で目を引くのが、ヤマコンの代名詞とも言えるコンクリートポンプ車を描いた油絵。石川島播磨重工業(現IHI)の田口連三社長(当時、天童市出身)が1987(昭和62)年、ヤマコン設立20周年を記念して贈った絵だ。石川島播磨重工業は日本で初めてコンクリートポンプ車を開発。田口社長が66年、本県を訪れ、

建設業者らを前にポンプ車の有用性を力説したことがヤマコン設立の端緒になった。同社の歴史を物語る絵と言える。

デスクの上には大ヒットを記録した映画「シン・ゴジラ」の模型も。映画には同社所有のコンクリートポンプ車が登場する。隆彦社長は「世界的な映画に出たことで業界のPRにもなった」と語る。